

「輪中堤」が仮復旧

紀宝町 台風12号で決壊

台風12号で決壊した紀宝町高岡地区の「輪中堤」の応急復旧工事が5日未明、完了した。地区に沿って流れる相野谷川の氾濫で、コの字形の全長529メートルのうち130メートルが9月5日早朝までに崩れるなどした。全

17世帯が浸水し、その後の台風15号もあり作業は難航していた。

住民の多くは今も、避難所や親戚宅などに身を寄せ暮らしている。高さ9・4メートル、これまで洪水から家や田を守ってきたが、今回は濁流であっけなく破れた。国土交通省近畿地方整備局によると、コンクリートで固めた元の姿に戻すかどうかは決まっていない。

今回の応急復旧では、幅40メートルの鉄製の板637枚を使って、堤を2重に囲った。堤内は人影がなく、土

砂にまみれた自動車が庭やガレージに放置されたまま。経営する店が2階まで浸水し、付近の自宅から片付けに訪れた中村邦夫さん(62)は「堤防が直っても安心はできないが、店を捨てるのはもったいない。時間がかかってもまたここで店をやりたい」と話した。同整備局紀南河川国道事務所の大杉広徳副所長は「強度は元の堤防に劣らないので安心してほしい」と話している。



台風12号で決壊し、応急復旧工事が完了した「輪中堤」。中央が復旧部分。5日午前、紀宝町で